

安政元年11月4日、東海沖地震に関する静岡県調査
報告：東京大学地震研究所(1977)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-07-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 宮崎, 隆 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025493

〈文献紹介〉

安政元年11月4日、東海沖地震に関する静岡県調査報告

東京大学地震研究所 (1977)

宮崎 隆*

ここに紹介する小冊子は、明治25年に設立された震災予防調査会の事業の1つとして、古地震に関する資料の収集を各市町村に依頼したアンケートの回答のうち、静岡県がまとめて東京大学へと送付した古文書集である。これが、羽鳥(羽鳥徳太郎, 1976, 『安政地震(1854年12月23日)における東海地方の津波・地殻変動の記録—明治25年、静岡県下26ヶ町村役場の地震報告から—地震研究所彙報、51、P13~P18)によって整理・報告されて以来、各方面からの原資料の全文を見たいという要望が強く、また萩原尊礼地震予知連会長(当時)からの要請などもあったために、地震研究所上田和枝技官と宇佐美龍夫教授(当時)によってまとめられ、特別に出版された。この資料は、その後の東海地震理論にも、大きな影響を与え、1983年、静岡市で開催された第四紀学会シンポジウムの席上において東海地震説の提案者でもある石橋克彦氏(建設省土木研究所)も、この資料を使って新しい考え方を示している。

東海地震説が公表されてすでに10年、もしも安政地震と同じ現象がくり返されるとするならば、どんな地震となるであろうかを理解するために、必読の古典文献の1つといえる。

目次の部分の要約から、二町村の例を示してみると、

○庵原郡由比町——「安政の時、駿河湾内に津波の湧起をみる薩埵山付近、地盤を増す。」

○城東郡千浜村——「安政の時、陸地1丈余り上る、ために収獲を減ず。」

など、単純な理論では片付けられない本県26カ町村の地殻変動の記録が書かれており、当時の地殻変動の姿を手取るように推定することができる。

地震対策を進めるならば、第一に、過去に起こった地震の被害、地殻変動の実態を明確にする。第二に、過去に起こった地震と同様な地震が発生した場合の被害を予測する。第三に、被害予測から県民を守るための防災対策を実施してゆくことの3点が大切であると考えられる。

全国に誇る静岡県の地震対策が、本当に県民の安全を考えた上で、進められて行くことを望む。

本冊子に関する問い合わせは、

〒113 東京都文京区弥生1-1-1、東京大学地震研究所「歴史地震研究会」または、〒420 静岡市追手町、静岡県地震対策課。

*県立熱海高等学校